

2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年1月31日

上場会社名 オークマ株式会社
 コード番号 6103 URL <http://www.okuma.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2020年2月7日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東名
 (氏名) 家城 淳
 (氏名) 堀江 親
 TEL 0587-95-7822

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	132,001	△13.8	12,622	△34.5	13,164	△35.1	8,964	△30.0
2019年3月期第3四半期	153,211	16.0	19,276	29.1	20,297	29.8	12,813	25.7

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 10,573百万円 (22.3%) 2019年3月期第3四半期 8,649百万円 (△49.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	283.93	—
2019年3月期第3四半期	399.44	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	222,758	174,966	75.4
2019年3月期	237,720	168,580	68.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 168,043百万円 2019年3月期 161,725百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	60.00	—	65.00	125.00
2020年3月期	—	65.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	65.00	130.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	170,000	△19.7	16,200	△41.3	17,000	△39.7	11,000	△40.6	348.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期3Q	33,755,154 株	2019年3月期	33,755,154 株
2020年3月期3Q	2,182,764 株	2019年3月期	2,182,009 株
2020年3月期3Q	31,572,817 株	2019年3月期3Q	32,077,134 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8
3. その他	9
(1) 受注及び販売の状況	9
(2) 海外売上高	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米中貿易戦争の影響に加え、英国のEU離脱や中東情勢をはじめとする政治・外交面の不透明感の高まり等により、景気減速が一段と強まる展開となりました。

米国経済は、底堅く推移しましたが、製造業においては停滞が続き、欧州経済はドイツをはじめ、各国で製造業の低迷が景気を下押ししました。また中国経済は、対米輸出の減少を減税等の内需拡大策により下支えするも、減速する中で推移しました。

わが国経済は、海外経済の減速に伴い輸出は低迷し、内需においては消費税増税後の影響が一部で見られるなど、景気の足踏みは続きました。

工作機械の需要動向につきましては、米国市場では、航空機産業からの需要は底堅く推移しましたが、米中貿易戦争の先行き不透明感の高まりを受け、中小規模事業者を中心に設備投資の先送りが顕著となりました。欧州市場では、製造業の低迷が長期化する中、全般に投資意欲の低下が強まりました。中国市場では、建設機械関係など、一部の産業では底堅さが見られましたが、総じて弱い展開が続きました。

国内市場では、労働力不足等への対応から設備投資に対する意欲は見られるものの、輸出の減少や長期化する米中貿易戦争の先行きを警戒し、設備投資を先送りする動きが続きました。

このような経営環境の下、当企業グループは大規模工場のみならず、中小規模工場にも広がる自動化・無人化の需要に幅広く応えるべく、AI・知能化技術を搭載するスマートマシンの提供や、生産性向上に貢献するスマートマニファクチャリング技術・製品の提案を進め、受注・売上・利益の拡大に努めてまいりました。

営業戦略におきましては、欧州国際工作機械見本市「EMO2019」（ドイツ・ハノーバー、2019年9月開催）等の世界各地の展示会に積極的に出展し、オークマブランドの浸透と拡販に努めました。2019年11月に本社工場と可児工場にて開催した「オークママシンフェア」では、国内外から8,000名近くの来場者があり、オークマのスマートマシン、自動化・無人化ソリューションに対し高い関心が示されました。

また、欧州の主要市場であるドイツでは、2019年9月に現地販売代理店をOkuma Europe GmbHの販売子会社とし、ユーザーにより密着した販売、サービスの展開を進めました。さらに、国内では東北CSセンター（郡山市）を開設、インドネシアでは現地法人PT. Okuma Indonesia（ジャカルタ市）にショールームを新設し、営業、サービスの強化を図りました。

技術戦略におきましては、次世代ロボットシステム「ROID」シリーズ（ARMROID、STANDROID）の適用機種拡大を進めました。また、自動車用金型や半導体製造装置等の大物部品加工に最適な立形マシニングセンタ「MB-80V」を上市し、プレス金型向け高精度円形マシニングセンタ「MCR-S」に誰でも簡単に空間精度を校正できる「3Dキャリブレーション」を搭載するなど、生産性向上に貢献するスマートマシン、自動化・無人化システムの開発を推し進めました。

製造戦略におきましては、スマートファクトリーDS3（Dream Site3）の稼働を開始し、立形・横形マシニングセンタの自己完結一貫生産、超高効率生産を実現しました。また、新生産管理システム、新物流管理システムを全工場の各部品へ適用し、生産効率の向上、リードタイムの短縮を推し進めました。

海外では、中国市場におけるプレミアム・エコ「GENOS」シリーズの需要拡大を受け、短納期対応、エンジニアリング力強化を図るべく、江蘇省常州市に生産子会社「大隈（常州）机床有限公司」を設立し、2020年3月の稼働開始に向け、生産準備を進めました。

これらの事業戦略を確実に実行してまいりました結果、当第3四半期連結累計期間の連結受注額は108,940百万円（前年同四半期比35.4%減）、連結売上高は132,001百万円（前年同四半期比13.8%減）、営業利益は12,622百万円（前年同四半期比34.5%減）、経常利益は13,164百万円（前年同四半期比35.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8,964百万円（前年同四半期比30.0%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間における総資産は、前連結会計年度末と比較して14,961百万円減少し、222,758百万円となりました。主な要因は「現金及び預金」の減少20,996百万円、「受取手形及び売掛金」の減少11,413百万円、「たな卸資産」の増加4,569百万円、「投資有価証券」の増加4,239百万円、及び「建物及び構築物」の増加4,040百万円などによるものです。また、負債は前連結会計年度末と比較して、21,348百万円減少いたしました。主な要因は「支払手形及び買掛金」の減少7,431百万円、「1年内償還予定の社債」の減少5,000百万円、「未払法人税等」の減少4,563百万円、及び「電子記録債務」の減少3,198百万円などによるものです。純資産は、「利益剰余金」の増加4,860百万円、「その他有価証券評価差額金」の増加2,166百万円、及び「為替換算調整勘定」の減少844百万円などにより、6,386百万円の増加となりました。この結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は75.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の世界経済の見通しにつきましては、長期化する米中対立や中東における地政学的なリスクの高まり等、政治・外交の先行き不透明感によって、引き続き力強さを欠く展開が続くものと見られます。

工作機械需要の今後については不透明な状況ですが、中長期的には構造的な労働力不足への対応として、自動化・無人化への投資はグローバルに根強く、今後とも底堅く推移し、先行き懸念が後退すれば、潜在需要は大きく発現すると見込まれます。

自動車分野では電動化等、環境対応への開発投資も期待されます。またAIや5G等、デジタル分野の新技術対応に向けたIT需要は、緩やかながらも回復が見込まれ、工作機械の需要は持ち直しに転ずると予想されます。

米国市場では、米中貿易戦争の激化が回避される中、工作機械の需要は回復へ向かうと見込まれます。欧州市場では、外需の回復が進む中、企業の合理化投資等により需要は緩やかな持ち直しに向かうことが期待されます。中国市場では、世界的なIT需要の回復や自動車生産が下げ止まる中、工作機械の需要は持ち直すものと思われれます。

国内市場では、輸出や半導体市場の需要回復に伴い、合理化・省力化投資や更新投資が再開し、需要は緩やかな回復に向かうと見込まれます。

このような経営環境の下、当企業グループは、世界の製造業の生産性向上を図る技術・製品・サービスの提供により、最高の「ものづくりサービス企業」を目指してまいります。そして、労働力不足が世界の製造業の課題となる中、高まる自動化・無人化、生産性向上に対するニーズに世界を先導して応えてまいります。

営業戦略におきましては、国内、海外に開設した新たな販売・サービス拠点を活用し、航空機エンジンや半導体製造装置等の活況業種への攻略を軸に販売活動をグローバルに展開し、オークマブランドの浸透と顧客開拓を図ってまいります。また、世界各地の展示会に積極的に参加し、AI・知能化技術を搭載するスマートマシン、生産性向上に貢献するスマートマニュファクチャリング技術・製品をアピールし、顧客基盤の拡大を図ってまいります。

技術戦略におきましては、独自のAI・知能化技術を搭載したスマートマシンの開発を更に進めるとともに、次世代ロボットシステム「ROID」シリーズ等、自動化・無人化システムの仕様展開の充実を図り、グローバルに自動化・無人化ソリューションを浸透させてまいります。さらに、スマートファクトリー「Dream Site」で培った生産革新ノウハウのお客様への提供を図り、ものづくりサービス事業を拡大してまいります。

製造戦略におきましては、本社工場のDS1 (Dream Site1)、DS2、可児工場のDS3の稼働を一段と高めて超高効率生産の強化を図り、収益力の向上を図ってまいります。また世界的に高まる「GENOS」シリーズの需要に応えると共に、グローバル調達の拠点とすべく、台湾工場の生産力の強化を図ってまいります。

これらの取り組みにより、当企業グループの成長戦略を強力に推し進めてまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	61,222	40,226
受取手形及び売掛金	45,178	33,764
電子記録債権	801	1,217
たな卸資産	54,615	59,185
その他	5,056	6,356
貸倒引当金	△154	△173
流動資産合計	166,720	140,577
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	21,081	25,121
その他（純額）	21,571	23,113
有形固定資産合計	42,652	48,235
無形固定資産		
投資その他の資産	3,534	5,019
投資その他の資産		
投資有価証券	21,808	26,048
その他	3,044	2,918
貸倒引当金	△40	△40
投資その他の資産合計	24,812	28,926
固定資産合計	70,999	82,181
資産合計	237,720	222,758

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,880	11,449
電子記録債務	15,735	12,537
短期借入金	-	1,347
1年内償還予定の社債	5,000	-
未払法人税等	5,541	977
賞与引当金	3,325	1,520
役員賞与引当金	141	102
製品保証引当金	344	360
その他	12,575	11,358
流動負債合計	61,545	39,653
固定負債		
社債	5,000	5,000
退職給付に係る負債	1,035	464
その他	1,558	2,673
固定負債合計	7,594	8,137
負債合計	69,139	47,791
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,000	18,000
資本剰余金	41,718	41,718
利益剰余金	107,851	112,711
自己株式	△9,858	△9,862
株主資本合計	157,711	162,567
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,946	9,113
繰延ヘッジ損益	0	-
為替換算調整勘定	△1,507	△2,352
退職給付に係る調整累計額	△1,425	△1,285
その他の包括利益累計額合計	4,013	5,475
非支配株主持分	6,855	6,923
純資産合計	168,580	174,966
負債純資産合計	237,720	222,758

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	153,211	132,001
売上原価	105,416	91,857
売上総利益	47,794	40,143
販売費及び一般管理費	28,518	27,521
営業利益	19,276	12,622
営業外収益		
受取利息	183	164
受取配当金	631	724
為替差益	123	-
その他	454	418
営業外収益合計	1,393	1,307
営業外費用		
支払利息	42	25
為替差損	-	338
その他	329	401
営業外費用合計	371	765
経常利益	20,297	13,164
特別損失		
投資有価証券評価損	100	-
投資有価証券売却損	664	-
工場再構築費用	-	403
特別損失合計	764	403
税金等調整前四半期純利益	19,532	12,761
法人税等	6,125	3,362
四半期純利益	13,407	9,399
非支配株主に帰属する四半期純利益	594	434
親会社株主に帰属する四半期純利益	12,813	8,964

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	13,407	9,399
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,676	2,167
繰延ヘッジ損益	△3	△0
為替換算調整勘定	179	△1,132
退職給付に係る調整額	91	140
持分法適用会社に対する持分相当額	△350	-
その他の包括利益合計	△4,758	1,174
四半期包括利益	8,649	10,573
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,236	10,427
非支配株主に係る四半期包括利益	412	146

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	日本	米州	欧州	アジア・パ シフィック	計		
売上高							
外部顧客への売上高	78,708	41,619	22,892	9,991	153,211	—	153,211
セグメント間の内部売上高 又は振替高	50,061	18	111	8,777	58,969	△58,969	—
計	128,769	41,637	23,004	18,769	212,180	△58,969	153,211
セグメント利益	14,304	2,056	1,448	1,613	19,422	△146	19,276

(注) 1. セグメント利益の調整額△146百万円は、未実現利益の消去他であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	日本	米州	欧州	アジア・パ シフィック	計		
売上高							
外部顧客への売上高	66,425	36,193	19,282	10,099	132,001	—	132,001
セグメント間の内部売上高 又は振替高	44,864	30	77	9,553	54,526	△54,526	—
計	111,290	36,224	19,359	19,653	186,527	△54,526	132,001
セグメント利益	9,875	1,470	368	1,516	13,230	△607	12,622

(注) 1. セグメント利益の調整額△607百万円は、未実現利益の消去他であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他

(1) 受注及び販売の状況

①受注状況

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高
NC旋盤	43,553	26,296	25,485	15,295
マシニングセンタ	79,707	43,888	50,651	27,928
複合加工機	38,880	13,702	27,139	9,675
NC研削盤	3,589	2,261	2,546	1,703
その他	2,945	1,106	3,117	884
合計	168,676	87,255	108,940	55,487

(注) 受注高、受注残高には消費税等は含まれておりません。

②販売実績

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	
	売上高	構成比(%)	売上高	構成比(%)
NC旋盤	34,771	22.7	34,134	25.8
マシニングセンタ	79,160	51.7	60,930	46.2
複合加工機	34,266	22.4	30,493	23.1
NC研削盤	2,536	1.6	3,181	2.4
その他	2,476	1.6	3,262	2.5
合計	153,211	100.0	132,001	100.0

(注) 売上高には消費税等は含まれておりません。

(2) 海外売上高

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

	米国	その他 米州	欧州	中国	その他 アジア・パ シフィック	計
I 海外売上高(百万円)	34,417	6,909	22,967	17,530	8,421	90,246
II 連結売上高(百万円)	—	—	—	—	—	153,211
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	22.5	4.5	15.0	11.4	5.5	58.9

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

	米国	その他 米州	欧州	中国	その他 アジア・パ シフィック	計
I 海外売上高(百万円)	30,493	5,543	19,517	12,313	10,892	78,760
II 連結売上高(百万円)	—	—	—	—	—	132,001
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	23.1	4.2	14.8	9.3	8.3	59.7